

「内部河川・運河の活用とコミュニティ強化」プロジェクト

代表者 志村秀明【教授】（建築学部 建築学科）

構成員 堀越英嗣、郷田修身、原田真宏、篠崎道彦、桑田仁、清水郁郎、佐藤宏亮（建築学部 建築学科）／遠藤玲（工学部 土木工学科）／松日楽信人（工学部 機械機能工学科）

プロジェクトの概要

江東区・中央区・港区の河川や運河は、アメニティや景観の向上、都市環境改善、観光振興、災害時対応などに向けての再生と活用が求められている。また、これらの地域では、都心回帰に伴う人口の増加が続く一方で、日常時のふれあいや社会教育、緊急時の相互扶助などで重要な役割を果たす地域コミュニティは希薄化している。これらの地域課題の解決に向けて、PBL型の演習の実施や地域志向科目の必修化を進める。特に、都心部においては、河川・運河の活用や歴史的資源を、PBLの題材や、新旧住民を含む地域コミュニティの触媒とすることに特色がある。都心部以外でも、中山間地域にあり過疎化と産業の衰退が著しい南会津町、高度経済成長期に整備した公共施設が更新期を迎えているさいたま市などでも、都心との交流や連携の対象としつつ、幅広いコミュニティ強化を目指していく。

COC活動の成果

【教育】

4学科15科目（2年～4年）で、幅広く地域志向教育の推進を行った。建築学科では、PBL「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ」「地域分析演習」「地域設計演習」「建築ゼミナール2」、講義「地域計画」を行った。建築工学科では、PBL「建築設計3C・3D」「建築ゼミナール2」、講義「地域計画1・2」を行った。土木工学科では、PBL「環境計画演習」、講義「都市の計画」を行った。デザイン工学科では、講義「都市施設計画」を行った。

「地域設計演習」と「建築設計演習Ⅰ」では、江東区の「深川東京モダン館」で市民に対して展示会と発表会を行った。PBLについては、いずれも実際の地域に入り込み作業することを理念としている。

【研究】

「アクション・リサーチ」（活動的研究）に取り組んでいる。都心のペイエリアでは、運河ルネサンス協議会などと連携して「船カフェ」「豊洲水彩まつり」などの社会実験を実施し、成果を検証するための調査などを行った。「豊洲水彩まつり」では、初めて豊洲5丁目の通称「東電堀」で開催した。月島地区の「月島長屋学校」では、誰でも長屋学校内部に入ることができる「オープン長屋」と、子ども達と若い世代が参加できる「こどもみちおえかき」イベントを開催した。南会津町では、現地で集落再生支援活動を行うとともに、本学芝浦祭で物産店を開いた。卒業論文・修士論文（3本）、大学院生による学会発表（2本）があった。

【社会貢献】

上記の社会実験は、サービス・ラーニングやアクション・リサーチの理念にもとづいており、地域課題の解決に向けた行動を実践するという意味で直接的に社会貢献となる。また、研究過程で地域の市民、NPO、企業、自治体などとの協働による調査・分析・提案を行うことで、学生と地域が相互に学ぶ知の交流という効果も併せもつ。

社会実験以外にも、本学の市民向け公開講座、中央区・港区主催の講座との連携、NPOと連携した講座などにより、地域に対して本学のもつ知を公開した。



2017年度の「豊洲水彩まつり」は、豊洲5丁目の水辺（東電堀）で開催された



「オープン長屋」では、誰でも長屋学校の中に入って地域住民や学生と話しができた



南会津町の集落再生支援活動の一環として、芝浦祭で物産店を開いた

主なトピックス

月島長屋学校 こどもみちおえかき

建築学科学生のアクション・リサーチによる卒業研究として、また月島長屋学校の活動の一環として、「こどもみちおえかき」イベントを開催した。

月島長屋学校は、コミュニティ強化プロジェクトとして多くの成果をあげているが、地域住民のメンバーや活動への参加者で若い世代が少ないことが課題となっている。そこで、若い世代を呼び込む企画としてこのイベントを開催することになった。

企画者は、建築学科の学生であり、自主的に企画を詰めていき、準備を進めた。まず長屋学校の定例会合で企画について説明し、長屋学校メンバーの地域住民から多くのアドバイスを得た。その後は、指導教員のアドバイスを受けながら企画の完成度を高めていった。企画を詰めていく段階では、地元町会にも働きかけ、助言をもらおうと共に、当日まで様々な支援を受けた。学生、長屋学校メンバー、地元町会の連携プロジェクトとなった。

イベントは計2回開催した。1回目は80名の参加者、2回目は67名の参加者と大いに盛況であった。

参加者に行ったアンケート調査の結果、若い世代は、LINEやSNSでの情報拡散を行うので、多くの参加者となったことが分かった。またイベントに対する評価は高く、一方で参加者と長屋学校メンバーなどとの交流を生み出す仕組みが必要であることなどが分かった。

このようなイベントを普及させるために、道路の選定、許可手続き、町会との連携方法、地域住民と学生との役割分担といった企画運営方法を提示することができた。



「こどもみちおえかき」イベント1回目。多くの子ども達と若い世代が参加した



「こどもみちおえかき」：参加者間の交流を生み出す工夫が必要であることを明らかにした

豊洲水彩まつり

豊洲5丁目の通称「東電堀」で9/30に開催した豊洲水彩まつりでは、カヌー・ディングー体験、運河クルーズ、町内対抗ゴムボートレース大会、水陸両用バスの入水体験、チャンネルカフェ、保育園スタッフによる子ども向けイベントなどが行われた。豊洲地区運河ルネサンス協議会を中心として、豊洲町会、商友会、築地市場関係者も参画し、地域が一体となって開催した。当日は約3000人ももの来場者があり盛況であった。

学生は、全体の企画補助、会場準備、運河クルーズの運営とグルーズガイドを務めた。また、町内対抗ゴムボートレースにも参加し、住民と力を合わせて見事優勝(2連覇)することができた。

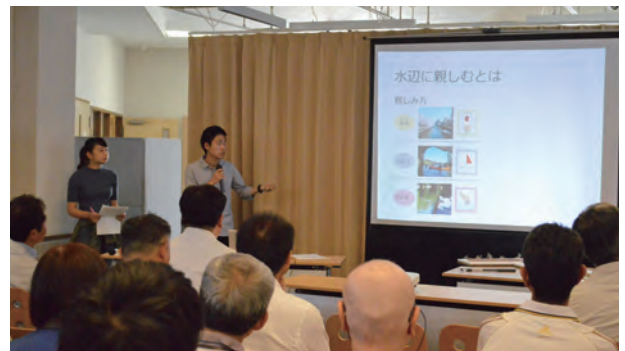


運河クルーズでの学生ガイド。湾岸地域の歴史を伝えるポイントなどを元気に紹介した

深川東京モダン館での発表会

建築学科3年生の「地域設計演習」、2年生の「建築設計演習Ⅰ」の作品展示会を、6/10から6/18にかけて、課題対象地区にある観光交流拠点「深川東京モダン館」で行った。合計で約100名の来場者があった。学生は交代で受付と説明者をつとめ、市民から直接コメントを聞けたと共に、意見交換もすることができた。

6/17には、学生発表会・公開講評会を行った。約20名の来場者があった。地域設計演習の4作品、建築設計演習Ⅰの3作品の発表があった。学生達は、市民に向けて提案を発表し、市民からのコメントを聞くことができ、さらに意見交換ができるという貴重な経験をもつことができた。



深川東京モダン館での発表。パワーポイントと模型を使用して、市民に対して発表した